

18歳意識調査 「第64回 -皇室・就職-」 報告書

日本財団 2024年6月10日

目次

内容	ページ
調査概要	3
皇室への関心	5
皇室への関心が高まる取り組み	6
皇室関連情報への接触	7
宮内庁Instagramの認知度	8
皇室への親しみ	9
「配属ガチャ」に対する認知・心配	11
希望と異なると不安・不満を感じる条件	12
希望と異なる配属への対応	13
退職代行サービスの認知度・利用意向	14
退職代行サービスの要否	15
退職代行サービス利用者増加の背景要因	16

第64回18歳意識調査「皇室・就職」 調査概要

調査対象

全国の17歳～19歳男女

回答数

1,000

※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男	166	168	179	513
女	158	160	169	487
計	324	328	348	1,000

実施期間

2024年5月17日（金）～5月18日（土）

調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

提示文章①

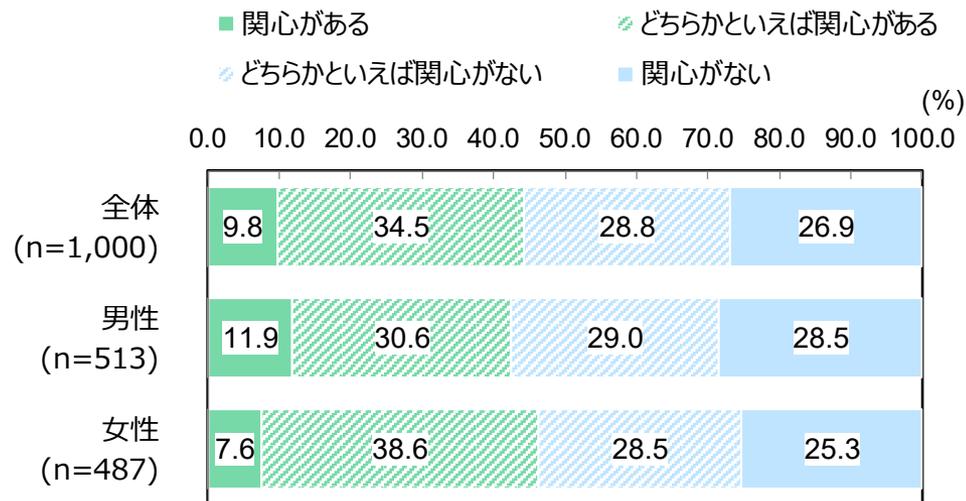
日本の皇室についてお聞きします。

皇室への関心

皇室について、全体の約4割が「関心がある」(*)と回答。

※ 「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」の合計。

質問1：あなたは、皇室に関心がありますか。（単一回答）

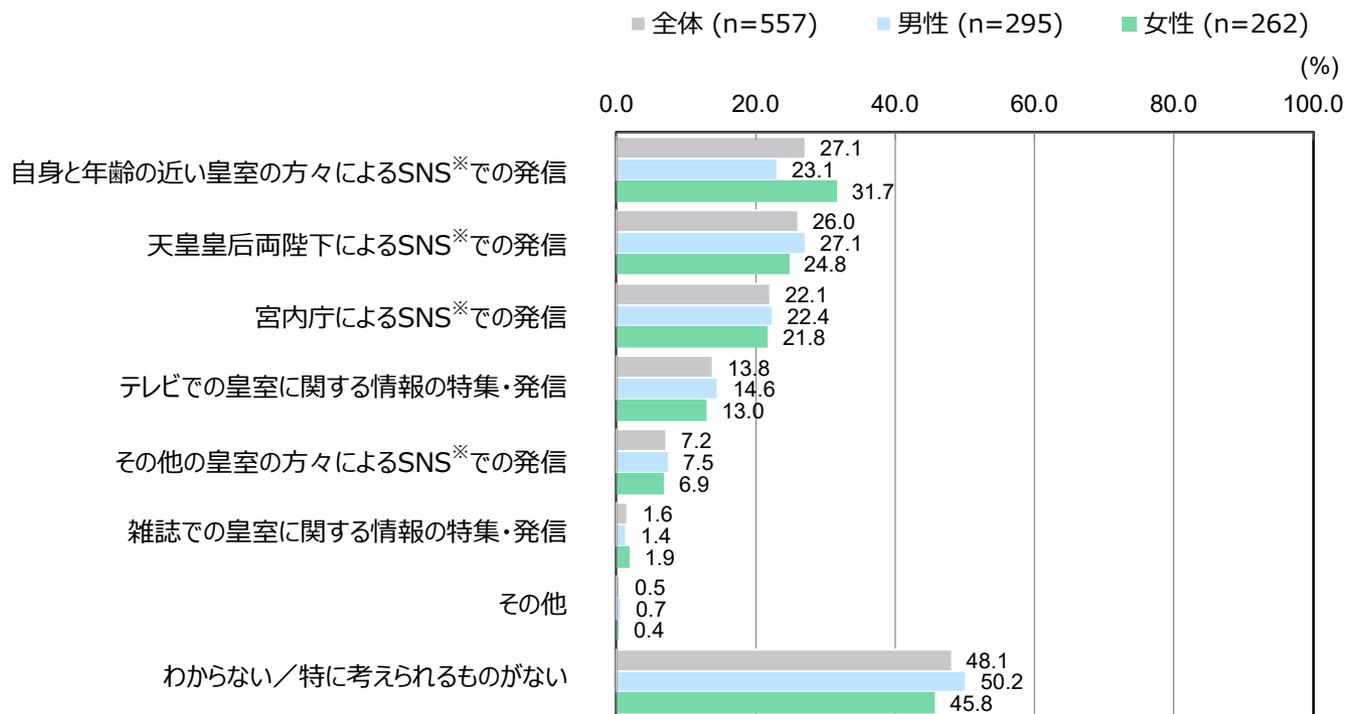


皇室への関心が高まる取り組み

皇室への関心が高まる取り組みとしては、男女とも約半数は「わからない／特に考えられるものがない」と回答。これを除くと、男性では「天皇皇后両陛下によるSNSでの発信」、女性では「自身と年齢の近い皇室の方々によるSNSでの発信」との回答が最も多かった。

質問2：どのような取り組みがあれば、あなたの皇室に対する関心が高まると思いますか。最大3つ、当てはまるものを選択してください。

※質問1で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と回答した人のみに表示



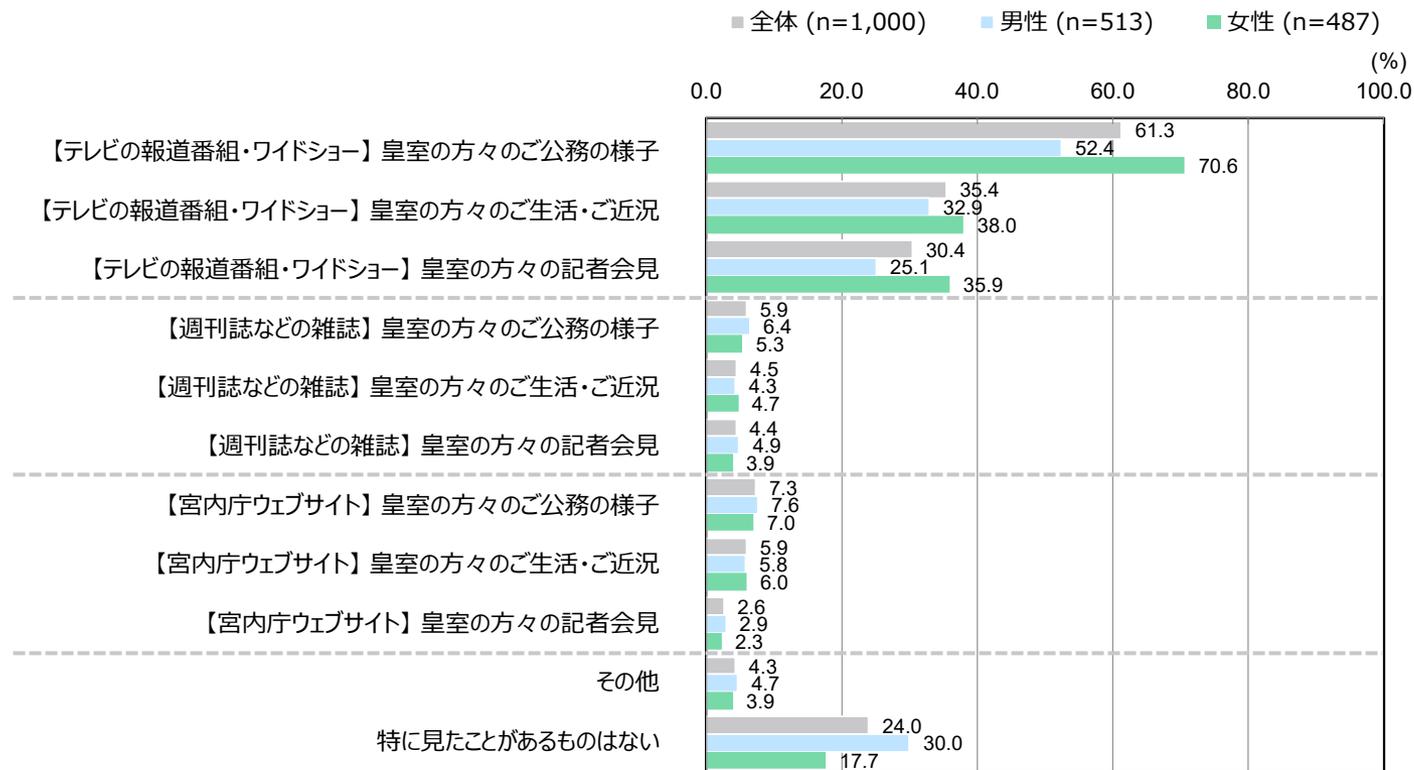
※SNSとは、YouTube、X、Instagramなどを指す。

※「その他」、「わからない／特に考えられるものがない」を除き、全体の降順で掲載。

皇室関連情報への接触

直近半年間に見た皇室関連情報としては、男女ともに「【テレビの報道番組・ワイドショー】皇室の方々のご公務の様子」が最も多く、男性の約5割、女性の約6割を占める。

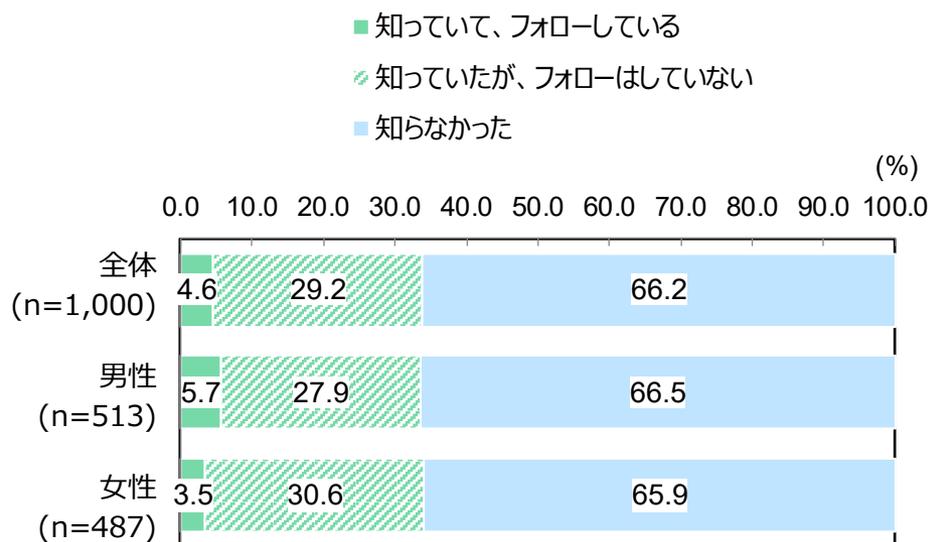
質問3：直近半年間の皇室関連情報について、以下の媒体における情報のうち、あなたが見たことがあるものはありますか。



宮内庁Instagramの認知度

宮内庁がInstagramを使った情報発信を始めたことについて、約7割は「知らなかった」と回答。「知っていて、フォローしている」と回答した人は約5%。

質問4：あなたは、宮内庁が2024年4月から、Instagramを使った情報発信を始めたことを知っていましたか。（単一回答）

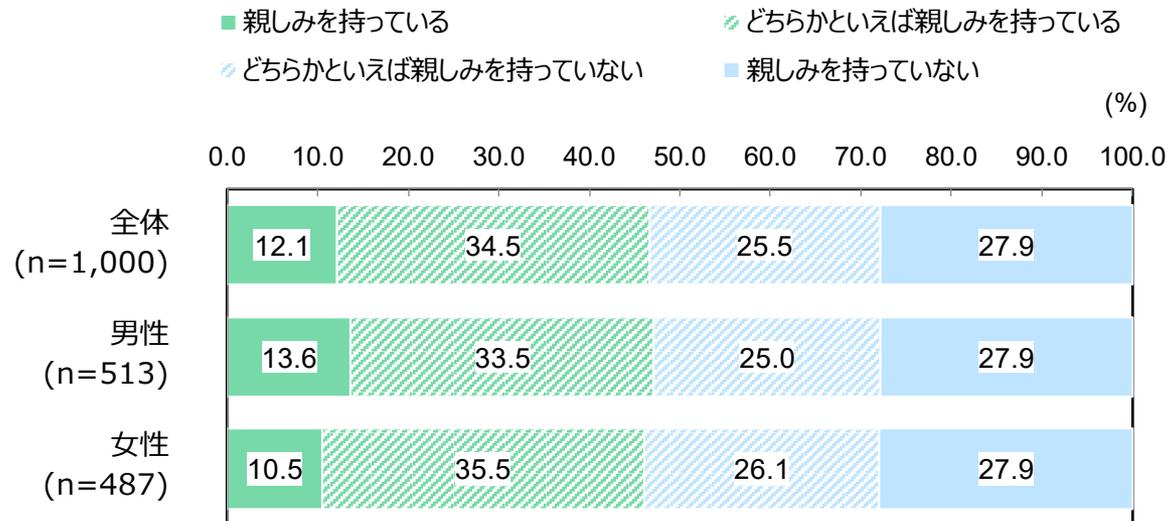


皇室への親しみ

約半数は皇室に「親しみを持っている」(※)と回答。

※ 「親しみを持っている」、「どちらかといえば親しみを持っている」の合計。

質問5：あなたは、皇室に親しみを持っていますか。(単一回答)



提示文章①

ここからは、あなたの就職に対する考えをお聞きします。

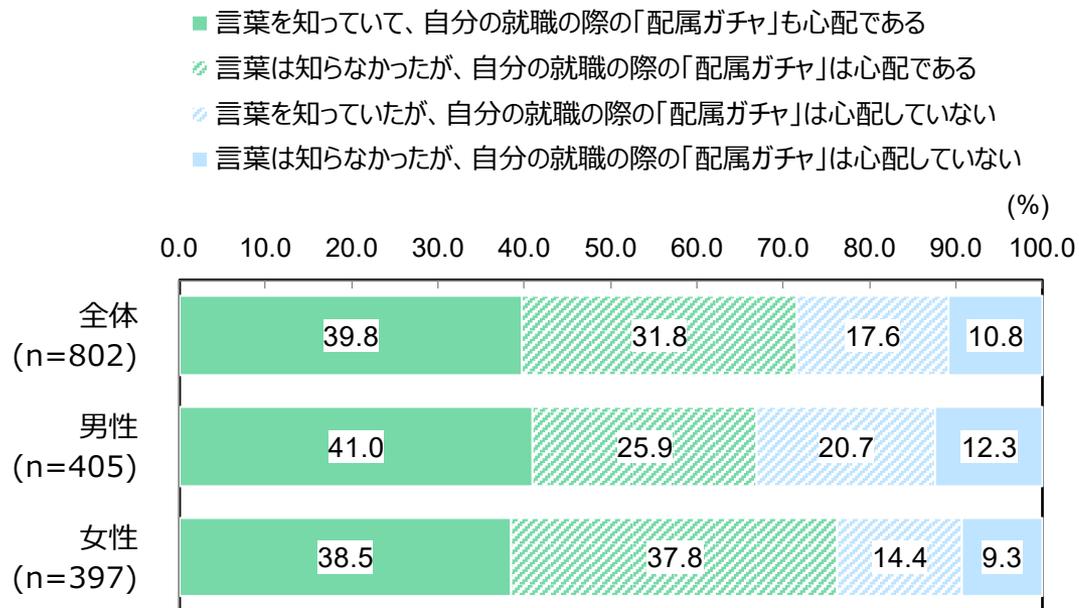
「配属ガチャ」に対する認知・心配

就職を予定している学生の約6割は「配属ガチャ」という言葉を「知っている」(※1)と回答。また、約7割は「配属ガチャが心配」(※2)と回答。※1 「言葉を知っていて、自分の就職の際の『配属ガチャ』も心配である」、「言葉を知っていたが、自分の就職の際の『配属ガチャ』は心配していない」の合計。

※2 「言葉を知っていて、自分の就職の際の『配属ガチャ』も心配である」、「言葉は知らなかったが、自分の就職の際の『配属ガチャ』は心配である」の合計。

質問6：就職の際、配属先の勤務地、部署などが自分の希望の通りになるかどうか分からない状況を「配属ガチャ」と表現することがあります。この言葉を知っていましたか。(単一回答)

※職業を「学生（高校生・高等専門学校生）」「学生（大学生・短大生・専門学校生）」と回答した人のみに表示、就職の予定はないと回答した人は除く

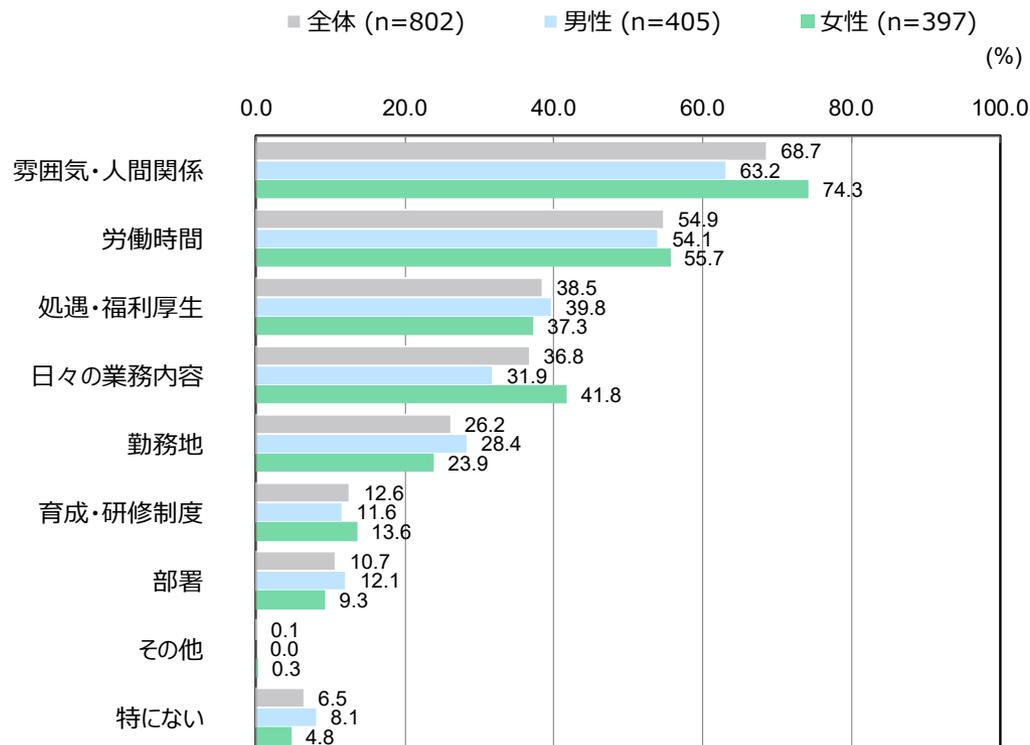


希望と異なると不安・不満を感じる条件

就職して配属後に自分の希望と異なっていたら不安・不満を感じるものとして、男性では「雰囲気・人間関係」、「労働時間」、「処遇・福利厚生」の順に多く、女性では「雰囲気・人間関係」、「労働時間」、「日々の業務内容」の順に多かった。

質問7：就職して配属後、どのようなことが自分の希望と異なっていたら不安・不満を感じますか。最大3つ、当てはまるものを選択してください。

※職業が「学生（高校生・高等専門学校生）」「学生（大学生・短大生・専門学校生）」の人で就職の予定がある人のみが回答

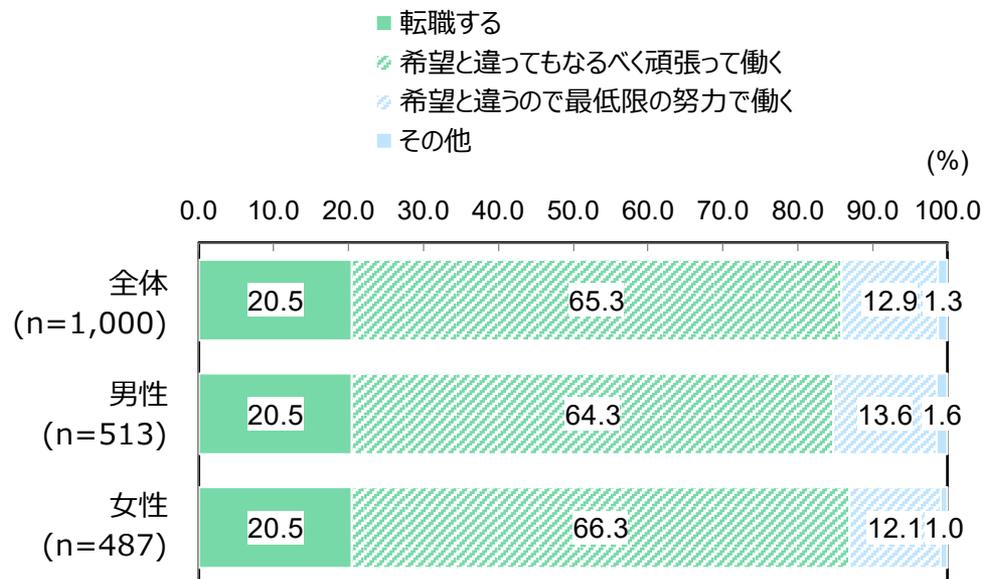


※「その他」、「特にない」を除き、全体の降順で掲載。

希望と異なる配属への対応

就職して配属後に自分の希望と異なる事項があった際の対応について、「希望と違ってなるべく頑張る」との回答が最も多く約7割を占める。その次に「転職する」と回答した人が多く、約2割を占める。

質問8：就職して配属後、自分の希望と異なる事項があった際、あなたはどのように対応すると思いますか。就職のご予定がない方はその状況を想像して、既に就職されている方は次の配属がその状況だった場合を想像してお答えください。（単一回答）

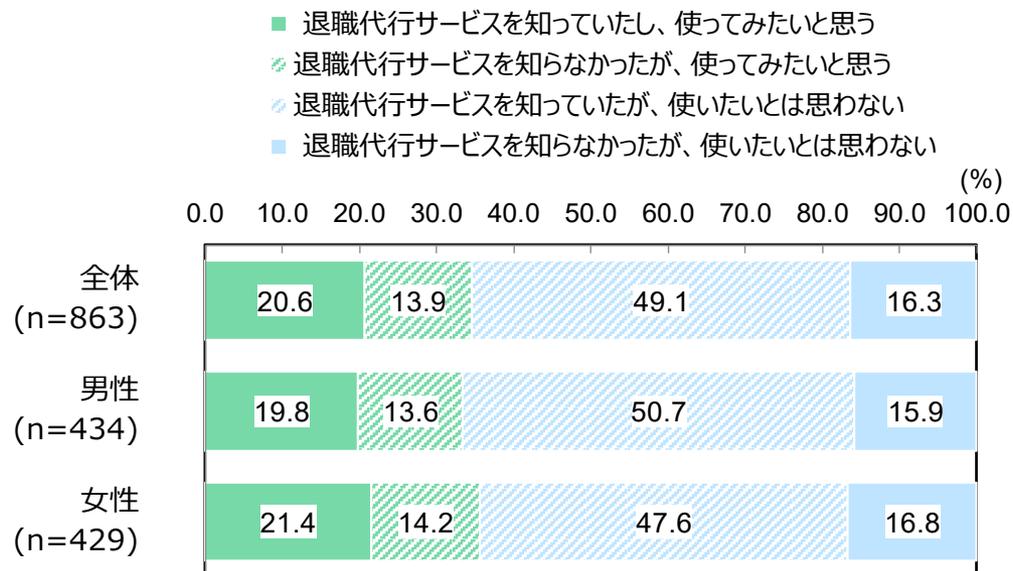


退職代行サービスの認知度・利用意向

就職予定のある学生と働いている若者の約7割は、退職代行サービスを「知っていた」(※1)と回答、また約3割は「使ってみたい」(※2)と回答。※1「退職代行サービスを知っていたし、使ってみようと思う」、「退職代行サービスを知っていたが、使いたいとは思わない」の合計。※2「退職代行サービスを知っていたし、使ってみようと思う」、「退職代行サービスを知らなかったが、使ってみようと思う」の合計。

質問9：あなたは「退職代行サービス」を知っていましたか。また、利用したいと思いますか。あなたの考えを教えてください。(単一回答)

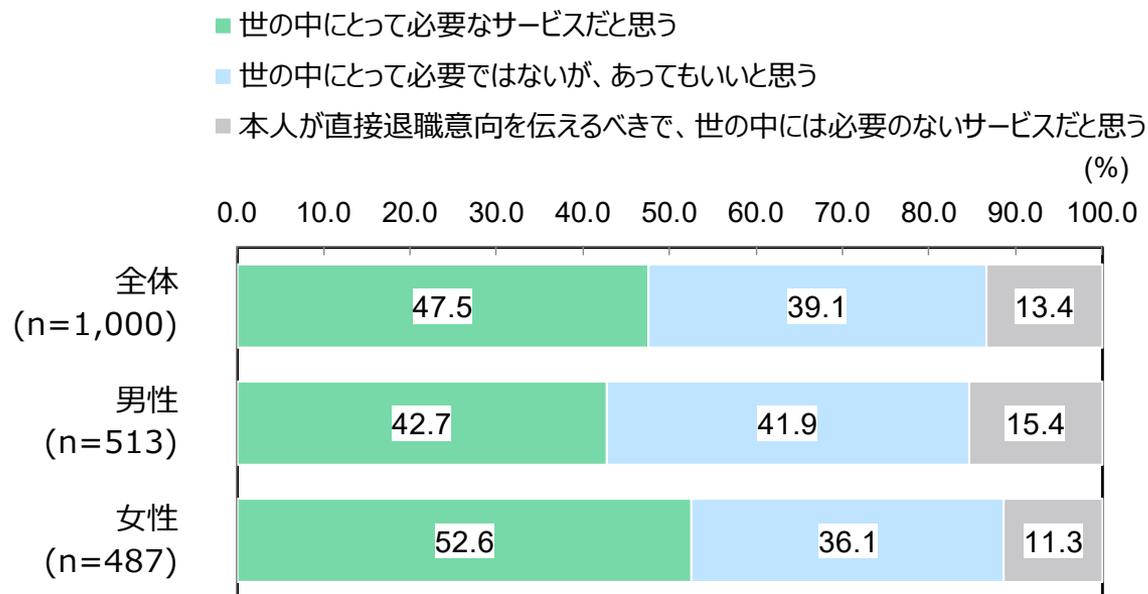
※職業が「正規の職員・従業員」「非正規の職員・従業員(パート、アルバイト、労働派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託)」の人、もしくは職業が「学生(高校生・高等専門学校生)」「学生(大学生・短大生・専門学校生)」で就職の予定がある人のみが回答



退職代行サービスの要否

退職代行サービスは「世の中にとって必要なサービスだと思う」と回答した人は約5割、「本人が直接退職意向を伝えるべきで、世の中には必要のないサービスだと思う」と回答した人は約1割。

質問10：あなたは、「退職代行サービス」は世の中にとって必要なサービスだと思いますか。（単一回答）



退職代行サービス利用者増加の背景要因

退職代行サービスの利用者が増加している背景として、「従業員を、代行サービスを利用せざるを得ない環境に置いた企業側に問題がある」との回答が約7割を占める。

質問11：「退職代行サービス」をめぐっては、今年の大連休後にサービス利用に関する問い合わせが急増したとの報道もあります。あなたは、利用希望者が増えている背景についてどう思いますか。（単一回答）

